



# 東京全労協

2014年3月25日 62  
東京都港区新橋6-7-1  
川口ビル6F  
TEL. 03 - 5403 - 1650  
FAX. 03 - 5403 - 1653  
発行人 瀧野 朗  
定価 1部 10円

## 震災後3度目となる「原発のない福島を！ 県民大集会」

震災後3度目となる「原発のない福島を！ 県民大集会」(同実行委主催)が3月8日、郡山市、福島市、いわき市で同時開催され、3会場に計5300人が集まりました。東京全労協からの参加者20名は、福島会場に参加しました。

原発事故は

収束していない

メイン会場の映像を各会場につなぎながら集会が行われました。菅野豊呼びかけ人からの開会挨拶のあと、五十嵐史朗集会実行委員長から「この集会は、全ての原発の廃炉をもとめ、放射能から子どもたちを守るという共通した願いで開かれています」との発言がなされました。呼びかけ人の清水福島大学教授からは「3年経ったが、いまだに14万人のひとたちが避難生活を行っている。原発関連で亡くなる方も増え、汚染水も漏れ続けている。役場の職員も自らが被災者でありながら過重労働を行い、原発労働



福島会場のデモ行進

者は被ばくにさらされながら懸命な作業を行っている。しかし、政府は原発再稼働を狙っている。原発のない社会をめざして決意も新たにして全国の人たちと手を携えて進んでいきたい」との挨拶がありました。続いて大江健三郎氏からの連帯の挨拶がありました。大江氏は、義父の映画監督、伊丹万作氏について「戦後『自分たちはだまされてきた』と語り、自らの責任から解放された気ではない日本人の姿を見た万作は、暗たんたる気分を抱いた」と紹介しながら「だまされたのは、よく知らなかったのではなく、よく知ろうとしなかったからではないか。日本人は事故後、大いに反省し、世論調査でも90%が原発廃止に賛成した。ところが、安倍政権が再稼働を進め、原発は安全と言い始めている。人々は戦時中のように薄々おかしきと気づきながら、自らだまされることを望んでいるのではないかと訴え、「再び事故を起こせば次の世代に生きていく環境を残せないのは

事実。だまされたことの責任をとらない日本人の姿勢を憂いた伊丹万作の言葉をもう一度かみ締めていきたい」と語りました。メイン会場での集会をうけて福島会場での集会が行われました。青森県代表の平和推進労働組合議長・江良實氏からは「大間原発再稼働反対している。六ヶ所村の再処理工場が膨大な税金2兆3千億円を費やしながらも機能を果たせずにいること。税金の無駄遣いを止めさせるためにも、再稼働を阻止するためにも核燃料サイクルに反対した取り組みを」との発言がありました。続いて帰還困難区域の飯館村長 長谷川 隆平さんからは、原発被災前の自然と人情豊かな村の様子が原発事故後、荒れ果てた自然と生活にされた人間関係と生活が映像を交えながら語られました。とりわけ飯館村が汚染されていることも知らずに子供達を被曝させてしまったことに対する怒りと悔しさが伝わる映像と言葉は参加者の胸を打ちました。そして最後に「諦めることになれてはいけません。普通に働けること、家族や周囲の人と語らい生活するということ当たり前を奪った原発

事故に対する思いを忘れてはいけません。」と訴えまわりました。続いて高校生平和大使だった高野さんは「大学生になつて放射能測定装置をソーラ電気の発電装置と勘違いする人もいてフクシマのことが理解されていない現実に愕然とした。平和は戦争がないだけではない。笑って暮らせる、家族や友人と共に過ごせる事だと思おう。」と語りました。集会のと福島市内をデモ行進しました。街中の建物には「除染中」の看板を掲げている所もありました。途中在特会と見られる人たちがデモ隊に対して悪罵を投げつけるという場面にも遭遇しました。安倍政権とその取り巻きたちが原発事故がなかったかのように振舞う結果が彼らを勇気付けさせていると思いました。私は、この集会に参加して改めて原発事故に対する怒りを改めて思いました。そして、今再稼働や原発輸出をしようとする安倍政権に対して多くのひとたちと共に暴走ストップの取り組みを強めたいと思いました。

原発は人が住めない町を作り出す翌日は、一年前には入ることのできなかつた櫛葉町などの避難解除準備地域に行きました。昼間には帰ることができても未だに住むことができない家が並び、除染した土を入れる黒い袋が畑のあちこちにおいてある風景は、未だに復興からは遠いことを実感させるものでした。櫛葉町役場で脱原発キャラバンに参加する全港湾・全日建・全国一般全国協の組合員と合流し、いわき地区の方の案内で現地見学をおこないました。役場に建つ「エネルギー 福祉都市 自然と科学が創造する豊かな郷土」という標語がむなししく感じました。この被曝量は0.1~0.2μSvでした。



いわき行動の被災地見学での櫛葉町役場(役場機能は移転している)

原発事故前は市民の憩いの場所だった天神岬公園から見える風景は、一面に広がる除染した土を入れた黒い袋で覆われていた。ここで除染労働を行っている方から話を聞きました。仕事をするのに支給されるのは、マスクと手袋だけ。作業服も靴も自分で準備すること。除染作業は、土を剥ぎ取り、どこからか持ってきた土をかぶせる、上の土を下にする天返し、デオライト(セシウムを吸着するといわれている)を土にまぜるなどの方法がとられているが、いずれも土を作物を育てるものにするには相当かかり、しかも除染は一度だけで終わるので除染後また汚染される可能性があり、防ぎようがないことが現実だと語られました。ここでの被曝量は、0.3~0.4μSvでした。続いて富岡町へ行きました。この富岡駅は駅舎が津波で流され、ホームと線路だけが残り、線路の向こうにあった家並みはすべて津波で流されてしまったそうです。周囲の建物も二年前のままの状態、線量が高いので壊すこともできない、完全に廃墟となった状態でした。ここでの線量は、0.3~0.4μSvでした。次に桜並木の名所だった夜の森に行きました。ここは、帰宅困難区域の一步手前まで行きました。ここで櫛葉町町議会議員の猪狩さんから話を聞きました。櫛葉町は事故前、3千世帯でしたが、今は家族がバラバラにされたので人口は変わらず世帯数が増え4千世帯になっていて、皆町の外の福島市内やいわき市内などで暮らしているそうです。町民へのアンケート結果によると約40%の人が櫛葉町には帰らないと回答しているとのことでした。ここでの線量は0.3~0.4μSvでした。まるでゴーストタウンのようになっている町。人が住むことのできない町、津波で壊されても片付けることもできない町の風景を目の当たりにして原発事故の恐ろしさを改めて感じました。こうした現実があるにも関わらず原発再稼働や輸出をしようとする安倍首相に対する怒りを改めて感じました。この現実を忘れてはいけません。伝え続けていかなければならないと思います。(南部全労協・藤村)

### 福島県民大集会に参加して

東京全労協のチャーターしたマイクロバスで3月8日は福島県教育会館で原発にない福島県民大会に、翌9日は被災地見学ツアーに参加させていただきまし

た。県民大集会では大江健三郎氏の挨拶、帰還困難区域の長泥区長の講演、高校生平和大使の訴えなどがあり、第三者のメディアでは伝えられない当事者の生の声が涙を誘う内容にぜひ全国民に見てほしいと思えました。

翌日の被災地見学ツアーは、昨年は立ち入ることさえできず現在も日中だけ立ち入るのが許可されている櫛葉町役場からスタートし、まず現場そばの立派なお城みたいな家が崩れたまま手付かずで放置されているのを見て驚きました。

三年が過ぎようとしていても津波被害のままの富岡駅と周辺を見てビックリしながらも驚きを通り越してまるで映画のセットのように感じました。

次の「この先帰宅困難区域につき通行止め」看板の場所では放射線計測器を持ってきている人たちの機器がピーピーと、いかにも危険だと警告音が鳴り響いていたのが印象に残っています。

櫛葉町役場では0.15だつた値が富岡駅では0.38、それが立ち入り禁止フェンスそばの側溝では27.0と

か。放射線は目に見えず匂いもしないので機器がなければ普通の町となんら変わらない。違うのは人気がないということだけで、ずっとこの場所にいっても大丈夫なんじゃないかと感覚が麻痺しそうになりました。

ツアーが終わり昼食に小名浜に行きましたが津波の被害だけだったので綺麗な建物や道路も整備されて、原発さえなければ櫛葉も富岡も復興はできたのにと思えました。

福島で作られている電気は全て東京のためという話を聞いて東京都民として原発被災地に行く意味があると思えました。

東京全労協の被災地支援のために現地にお金を使うという主旨に大いに共感し、私も小額ながらも協力できた喜びも感じました。参加させていたいただいてありがとうございました。

全国一般三多摩労働組合 福田健一



帰宅困難区域ゲート

### ストライキで 切実な要求実現を！

3月3日、郵政労働運動の発展をめざす全国共同会議（事務局団体・郵政産業労働者ユニオン、郵政倉敷労働組合）主催による14春闘勝利！非正規雇用労働者の正社員化と均等待遇を求め本社前要求請行動が行われました。今年で6回目の集会に200名の仲間が集まりました。

主催者あいさつは日巻郵政産業ユニオン委員長が行い、その中で集会に先立ち、この日まで集めた署名、25929筆を非正規労働者3名を先頭に日本郵政本社に提出したことを報告しました。

金澤全労協議長、小田川



全労連事務局長、宮垣全労連・公務連絡会代表委員が連帯のあいさつを行いました。非正規労働者からのアピールは東京、兵庫、大阪、広島から4名の仲間が訴えました。「期間雇用社員は捨て駒ではない」、「夫婦と

も非正規で生活が苦しい。正社員として働きたい」、「職場は要員不足。今こそ、経験ある非正規を正社員化すべきだ」、「息子3人、一生懸命働いている。私たちがモノではない。正社員化は日本郵政の社会的責任だ」、非正規仲間の訴えはいつでも切実で胸を打つものでした。

最後に集会アピールを川上郵倉委員長が読み上げ、団結がんばろうで終了しました。この後行われた院内集会では参加した非正規労働者一人ひとりが国会議員に正社員化と均等待遇の実現を訴えました。日本労働弁護団の栗一郎弁護士が労働法制をめぐって報告も行われました。

郵政産業ユニオン 中村

### 外国人労働者・移住労働者の春闘

3月2日、東京都内のホテルで「マーチ・イン・マーチ2014」を開催しました。この取り組みは93年、全統一労組、神奈川シティユニオン、全国一般労働組合東京南部など外国人労働者を組織する労働組合と、増加する外国人労働者の労働相談を受けた東京安全センターが、外国人労働者の権利獲得の課題を合同で取り組んだのがきっかけとなっています。外国人労働者の春闘として、毎年3月に外国人労働者の権利獲得の行動を継続しています。05年からは、外国人労働者（移住労働者）が権利を訴えデモ行進する「マーチ・イン・マーチ」（3月の行進）を



組織し、3月恒例の闘いにしてきました。10年には移住労働者との多民族・多文化共生社会に向けた「移住労働者のコンサート」を催し、外国人労働者の課題を文化的に表現しました。

今年は「ともに生きよう！多民族多文化共生社会へ マーチ・イン・マーチ2014」をテーマに呼び掛けを行いました。

会場には外国人労働者・移住労働者が多くを占め、実行委員会の呼び掛けで結集した日本の労働者も多く参加しました。

日本人スタッフは、彼らの下支えに回り、ステージ上でのパフォーマンスで自分たちの存在を訴える、歌う・演奏する・踊る・スピーチするなど多様に表現をしてくれました。あつという間の90分で、演奏終了後はサンパ隊を先頭にパレードで「外国人だからといって、首切りするな、差別はやめろ！ともに生きよう！」と訴えて「マーチ・イン・マーチ2014」を終了しました。（岩野）

### 第85回日比谷メーデーに 結集しよう！

～安倍政権の暴走にストップ！！～

2014春闘は、一部輸出産業・大企業で6年ぶりにベアが実現します。しかし、中小労働者・非正規労働者は取り残され、逆に格差は拡大し、消費増税によって貧困は拡大される状況です。さらに、派遣労働の全面自由化や労働時間の規制緩和を中心とした労働法制改悪が追い打ちをかけています。

安倍政権は、「特定秘密保護法」の成立、「国家安全保障会議（日本版NSC）」の創設、国家戦略特区、TPP推進、教育の国家統制、原発の再稼働など反動政策を強め、解釈改憲による集団的自衛権行使の容認など、自衛隊を国軍化し「戦争をする」国にしようとしています。こうした安倍政権の暴走を止める第85回メーデーにしなければなりません。

そして、地球規模で進む環境破壊、食糧危機や飢餓などの根源である市場原理優先の規制緩和・新自由主義グローバル化、自己責任・自助努力を強制する企業利益優先の社会に反対し、未組織労働者・非正規労働者・外国人労働者の低賃金と労働条件全般の改善、労働者の生活と権利を守る闘い、平和と民主主義を確立する闘いに国際連帯を強め、すべての労働者の団結が必要です。

東京全労協は、メーデーを「闘いの広場」として位置付け、今日の状況、昨年までの経過を踏まえる中で、統一メーデーの実現を求める立場をあらためて確認し、メーデーの歴史と伝統を掲げ、5月1日に開催する第85回日比谷メーデーへ結集します。

#### 第85回日比谷メーデースローガン

働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう！

東日本大震災の被災者に連帯し、救援・復興に全力をあげよう！  
すべての原発を廃炉へ、原発依存のエネルギー政策の転換を！  
集団的自衛権の行使を許さず、憲法9条を守ろう！